

新人看護師への集合教育の評価

キーワード：新人研修、教育プログラム

C棟5階 米田直子、橋村かなえ、熊村悦子

I. はじめに

保健師助産師看護師法が改正され、平成22年4月から新人看護職員研修が努力義務となった。これを受けて、今年度は院内の集合研修に加え、病棟単位での集合研修を行うことになった。当病棟では、昨年度の院内の集合研修の指導項目を踏まえ、病棟で必要と考えられる項目を選択し、今年度の技術項目を決定した。新人看護職員研修ガイドライン¹⁾では、「新人看護職員を支えるためには、周囲のスタッフだけではなく、全職員が新人看護職員に関心を持ち、皆で育てるという組織文化の醸成が重要である」と記載されている。この理念に基づき、スタッフ全員で指導に参加できるように技術項目を検討し実施した。そこで指導の担当者と新人を対象にアンケートを行い、病棟で行った集合研修について評価し、新人教育の方法を検討したので報告する。

II. 目的

本研究の目的は新人看護師への集合教育の評価をし、問題点を明確にすることで、新人教育の指導方法に有意な方策を検討する。

III. 研究方法

1. 対象

病棟新人教育で集合教育を行った先輩看護師26名と指導を受けた新人看護師6名。

2. 方法

平成22年4～5月に新人に対して行った集合教育における技術項目に関してのアンケート調査を行った。

技術項目は「感染（スタンダードプリコーション）」「転倒転落」「清潔ケア」「末梢ルート作成・キープ・管理」「薬合わせ」「輸液ポンプ・シリンジポンプ」「経管栄養（経鼻・

PEG）」「吸引（口・鼻・気管内）」「トランス」「採血」「注射」「血糖測定」「口腔ケア」「CV挿入介助・管理」「心電図モニター」「酸素療法」「浣腸・摘便」「褥瘡予防・ドレッシング材」「抑制」「麻薬管理」「電子カルテの見方・使用方法」「情報の取り方・仕事板の作り方」の22項目（以降下線のように省略する）である。

アンケートの内容は、22項目の集合研修それぞれに、①時期がいい（4月中がよい）、②時期が悪い（5月以降でもよい）、③実際に指導する前に集合研修が必要、④実際に指導するため集合研修は必要ない、⑤自己学習だけでは不十分、⑥自己学習だけでよい、⑦病棟での集合研修が必要、⑧院内での集合研修が必要、⑨その他自由記載とし、複数選択とした。

調査期間は、平成22年10月29日～11月8日の10日間とし、箱を設置し調査用紙を回収した。

3. 倫理的配慮

所属施設の看護研究倫理委員会の承諾を得て行った。アンケート用紙の記入の自由と、個人を特定するものではないことを文章にて説明した。

IV. 結果

先輩看護師26名中20名より回答が得られ、回収率は77%であった。新人6名中4名から回答が得られ、回収率は67%であった。

1. 時期について

先輩は22項目中19項目で新人は16項目で『時期がよい』が『時期が悪い』を上回った。また、『時期が悪い』が『時期がよい』を上回った項目は、先輩では「抑制」「CV」「褥

瘡」で、新人では、「CV」「ポンプ」「酸素」「経管栄養」であった。(表1)

日常生活介助とは異なる項目は早急に指導が必要な項目ではないという結果だった。

表1. 時期について

	先輩看護師(人)		新人看護師(人)	
	良い	悪い	良い	悪い
経管栄養	8	4	1	2
酸素療法	9	3	1	2
褥瘡	2	7	1	1
ポンプ	6	5	1	2
CV	3	11	0	3
抑制	5	6	3	0

2. 集合研修の必要性について

『集合研修は不必要』が『必要』を上回った項目は、先輩では「清潔ケア」「口腔ケア」「薬合わせ」「血糖測定」「浣腸・排便」であった。新人では、「薬合わせ」「浣腸・排便」であった。(表2)

患者毎の個性が必要とされる項目が集合教育より臨床での指導が適しているとする結果だった。

表2. 集合研修の必要性について

	先輩看護師(人)		新人看護師(人)	
	必要	不必要	必要	不必要
清潔ケア	1	11	0	0
口腔ケア	4	8	1	0
浣腸・排便	5	11	0	1
薬合わせ	3	9	1	1
血糖測定	5	6	3	0

3. 自己学習だけで十分かについて

先輩では全ての項目で『自己学習だけでは不十分』が『自己学習だけで十分』を上回った。先輩は全ての項目において何らかの指導が必要であるという認識があり、集合教育や現場での指導を通して新人の理解を確認する必要があると感じているためと考えられる。

新人では「感染」「血糖測定」「採血」で『自己学習だけで十分』との回答があった。(表3)

患者毎の個性や手順の複雑性が少ない項目が、自己学習を臨床での実践に結び付けやすいとする結果だった。

表3. 自己学習だけで十分かについて

	新人看護師(人)	
	十分	不十分
採血	1	0
血糖測定	1	0
感染	1	1

4. 集合研修の単位について

先輩で『院内での集合研修が必要』が『病棟での集合研修が必要』を上回った項目は、「褥瘡」「ポンプ」「注射」「採血」「感染」「電子カルテ」の6項目であった。新人は『院内での集合研修が必要』との回答があったのは22項目中「トランス」「ポンプ」「採血」「血糖測定」の4項目であった。(表4)

院内マニュアルが存在し、病棟での独自性が少ない項目が集合研修を必要とする結果であった。

表4. 集合教育の単位について

	先輩看護師(人)		新人看護師(人)	
	病棟	院内	病棟	院内
トランス	4	5	2	1
褥瘡	3	9	1	0
ポンプ	3	8	2	1
注射	3	9	3	0
採血	3	11	2	1
血糖測定	3	5	2	2
感染	1	11	1	0
電子カルテ	2	9	3	0

V. 考察

先輩は22項目中19項目で新人は16項目で『時期がよい』が『時期が悪い』を上回った事に加え、先輩は全ての項目において何らかの指導が必要であるという認識がある事から、新人に指導し理解の程度を確認するためには4~5月が指導時期としては妥当であったと考えられる。

集合教育の単位について『院内での集合研修が必要』が『病棟での集合研修が必要』を上回った項目は、院内マニュアルに沿った集合研修があるため、病棟ではその研修後でもよいと考えられる。

早急に習得が必要な日常生活援助などは、早い時期に指導が必要だが、高度な知識と技術が求められるものや基本的な日常生活援助とは異なるものは、時期を早めてもよいと考えられる。また、新人は「感染」「血糖測定」「採血」については、自己学習だけで十分であると考えているため、これらの項目も早期に手技を習得できると考えられる。厚生労働省「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書²⁾では、「到達目標は各部署の特性や優先度に応じて、到達時期を具体的に設定する」と述べている。このことから、それぞれの具体的な到達目標を設定し、項目に応じた指導時期の検討が必要と考えられる。

次に、清潔ケアなどの個別性が必要とされる項目や、薬合わせなどの手順の複雑性が少ない項目は、集合教育より臨床での指導が適していると考えられる。逆に、輸液ポンプなどの操作が複雑な項目や、麻薬の取り扱いなどの患者に対するリスクが高い項目は、現場で細かな指導が必要となる。実践前に事前にマニュアルに沿った基本的知識を集合研修で指導しておくことにより、現場での指導時間の短縮や新人の理解がよりスムーズになると考えられる。

新人が自己学習だけで十分とする項目は、患者毎の個別性や手順の複雑性が少ないため、自己学習を臨床での実践に結び付けやすいと考えられる。佐藤³⁾は「就職時の自己評価は“生活への援助技術に関すること”は高く、“アセスメント能力”や“マニュアルからの脱却・急変時の対応に関する能力”は低い」と述べている。このことから、先輩と新人の間の教育的ニーズに差があると考えられるた

め、指導方法を検討することが必要と考えられる。

「ポンプ」「注射」「採血」「電子カルテ」は院内のマニュアルがあり病棟での独自性が少なく、「褥瘡」「感染」は手順が複雑で専門性が高いと考えられる。これらの院内のマニュアルがあり病棟での独自性が少ない項目や、手順が複雑で専門性が高い項目においては、病棟での集合研修の必要性は低く、院内での集合研修だけでもよいと考えられる。山西⁴⁾は「職種をまたいだ教育計画となるように整備し、職員全体、システム全体、組織全体が同一の基準で取り組めるよう配慮することが必要である」と述べている。

これらのことから、新人看護師の教育は周囲のスタッフだけではなく、皆で育てるという意識が重要であり、限られた時間で有効に指導を行っていくためには院内と病棟との連携が必要であると考えられる。

VI. 結論

- 1) 項目に応じた指導時期の検討が必要である。
- 2) 項目に応じた指導方法の検討が必要である。
- 3) 先輩と新人の間の教育的ニーズの差異を考慮した指導方法の検討が必要である。
- 4) 院内と病棟で連携した教育計画が必要である。

今回の研究では新人教育の方策まで至らなかった。今後はさらに研究を進め、新人教育の指導方法について検討する必要がある。

引用文献

- 1) 新人看護職員研修ガイドライン, 看護, 62 (7), p100 - 113.
- 2) 厚生労働省:「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書
- 3) 佐藤聖一: 教育的ニーズの差異からみる効果的なプリセプターシップの展開方法、看護教育、p.63-65、2009年
- 4) 山西文子: 看護実践能力育成のための看

護現任教育プログラム、メヂカルフレンド社、p5、2007年

参考文献

- 1) 田内川明美・草間由香里・林田彩子・工藤香・倉益直子：新人看護師の集合教育における技術演習の評価、日本農村医学学会雑誌、P.391、2007年
- 2) 泉美香・村上光江・近藤美津子・藤原千恵子：新人研修の講師先輩看護師を起用した教育効果と課題、第40回看護教育、P.33-35、2009年
- 3) 三成富美枝・小田原みち江：新人看護師と指導者によるOJT基礎看護技術研修の評価、第40回看護管理、P.285-287、2009年
- 4) 荒木厚子・石黒宏美・桂川厚子・谷川由美子：新人オリエンテーションプログラムと新人の学習ニーズの関連、第39回看護管理、P.170-173、2008年
- 5) 五十川麻紀・波多野哲司：新採用集合教育における採血・点滴技術に関する取り組みの一考察、アルメイダ医報VOL.35 No.1、P.27-28、2008年
- 6) 福井トシ子：新人看護師の基礎技術習得に関する調査、看護、61(5)、p.98-103、2009年
- 7) 馬場道子：新人看護師教育における集合教育とOJTの効果的な連携に関する研究、神奈川県立福祉大学実践教育センター看護教育研究抄録集 No.35 p.121-128、2010年